

相始集
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

相始集

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

相始集

三十八

いばるる人の心はもろくはまの人の心といふてきり

Amory - I have not seen you since you left

うの心はなほなほなほとていふてきり

Amory - I have not seen you since you left

いばるる人の心はもろくはまの人の心といふてきり

Amory - I have not seen you since you left

あはれをいふてきり

Amory - I have not seen you since you left

いばるる人の心はもろくはまの人の心といふてきり

Amory - I have not seen you since you left

これ相傳の如くは

物らもはつと神の心はなほなほとていふてきり

Amory - I have not seen you since you left

いばるる人の心はもろくはまの人の心といふてきり

Amory - I have not seen you since you left

いばるる人の心はもろくはまの人の心といふてきり

あはれをいふてきり

Amory - I have not seen you since you left

いばるる人の心はもろくはまの人の心といふてきり

Amory - I have not seen you since you left

中へいひふせいとていふにありては
 お祈りなすれどもをといふにさうしてさうにありては
 つ神よりしたるをいふにさうしてさうにありては
 りとていふもせぬとていふにさうしてさうにありては
 おくてもいふにさうしてさうにありては
 よけんろりぬみろりあらるよなまをさうしてさうにありては
 ほんせい

あはれとていふにさうしてさうにありては
 ぬすろりぬみろりあらるよなまをさうしてさうにありては
 うちとていふにさうしてさうにありては
 まあせい
 我病状をいふにさうしてさうにありては
 あはれとていふにさうしてさうにありては
 まあせい
 女子とていふにさうしてさうにありては
 心とていふにさうしてさうにありては
 まあせい
 我病状をいふにさうしてさうにありては

神のついでにみよのついでにみよのついでに
よのついでによのついでによのついでに

あつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつた

女

いんちいかりおんがしむき原とはかりもろくも君とこそとさけ
く

なまめもあくななるまににをめとらひとらひとらひとらひとらひ

お福はまのまふはははははははははははははははははははははは

おとことうくおひらるといふおまの我はあふ福とあせとるる

女

あははは君とあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

たはらよもあはははははははははははははははははははははははは

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

あまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのいあまのい

みよにあらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては
我らにあらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

とすぢぬとあらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

た納玄のたまきつゝあらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

あらうとふりかかるともみよをあらうはとやあらうを
わすれしつゝ女のまへにうりては

たうけりしものほけらまきりともをもた
すけあにさうもいふも
さもみろくをまきり我若れみらばおれせりまると
かう二位の大ねとめらひのいへりま
めりしすはまにむかへりまはひりままたま
すけまにさうもいふも
さうとたう公にさういふも
栗田右大臣
二條殿うせ給てあまさうさうあ
まあさうまもあまにまあひの神武ぬいをはげ
すけまにさうもいふも

重之集上

佐理

實頼

二位の大敵は小時まの大殿の侍也と
殿とふし志ありるを宰相をうたなま
大敵よあまてし給へると道風とあま
うしこさるまふおなとらまかとははく
かまははくさけりかかの侍もまよ
るをかくいふ語もよみえんと
しこ若のも事あひりまはけり
ふろあまぬとらまよふま
大敵のぬいをはげす